

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年12月24日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2023年12月21日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ
留学先大学	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(日本語名) California State University Long Beach(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2023年8月～2023年12月
留学先大学で在籍した学年	年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input checked="" type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月下旬～12 月下旬 2 学期: ~ 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	約 4 万人
創立年	1949 年

留学費用

留学費用項目	現地通貨 (\$)	日本円	備考
授業料	\$6,800	968,669 円	
宿舍費	\$6720.94	1,008,141 円	
食費	\$4,134	620,100 円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		円	
現地交通費		円	(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	\$2,142	300,000 円	
被服費	\$235	35,250 円	
医療費		円	
保険費	\$679.45	96,184 円	形態: 明治大学、CSULB
渡航旅費	約\$2,000	300,000 円	
ビザ申請費	\$149	22,400 円	
雑費	約\$363.5	54,538 円	生活必需品、モーテルの宿泊など
その他		円	
その他		円	
合計	約\$23,223.89	約 3,405,282 円	

渡航関連

渡航経路	
往路 出発地: 羽田空港 目的地: LAX 経由地:	
復路 出発地: LAX 目的地: 成田空港 経由地:	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: JAL 料金: 約 300,000 円	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金:	∴ 合計:
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: エクスぺディア)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)

 学生寮(寮の名前:インターナショナルハウス) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

 個室 相部屋(同居人数 2 人)

3) 共有部分

 バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

協定校指定のウェブサイトにて登録を行いました。

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

ヒルサイドのインターナショナルハウスに滞在していました。アメリカ現地在住者も多くいましたが、自分が入寮した学期異はフランスやインド、日本、韓国からなどの留学生が主に滞在していました。居住環境は良くも悪くもありませんでしたが、別段生活を行うだけなら大きな不便はありませんでした。活気もあり、友達もできやすいため迷っているなら入寮を検討することをお勧めします。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例:現地の病院、学内の診療所)

 なし あり(治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

 なし あり(問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

特になし

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

基本的に問題ないが、場所によっては弱い。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

事前に親に振り込んで貰った。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

ポン酢

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

事前にクレジットカードで支払いを行った、

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Africana Studies	アフリカ学
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ
履修期間	1 学期間
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンライン(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Uche Okafor
授業内容	アフリカやそのほかの特定の問題に対するエッセイの作成
試験・課題等	中間試験、期末試験、そのほか 5 つのエッセイの作成
感想を自由記入	授業自体もオンラインであるため、他の学生との交流はほぼない。加えて、授業内容はアフリカについて学ぶというよりは、アフリカ文化に関連したトピックのエッセイを書くという事が目的であるため、イングリッシュライティングの授業であると思って履修するのが望ましいと感じた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
International Studies/Global citizenship	国際関係学
科目設置学部・研究科	
履修期間	1 学期間
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Graham Odell
授業内容	Global Citizenship という概念から現代社会が抱える問題の認知と、その解決のためにはどのような行動、態度をとるべきなのかについての学びを深める。
試験・課題等	1週間に1度の間隔で授業内ディスカッションが行われ、その内容についてのショートエッセイを提出する。加えて、毎授業ごとに指定のホームページにおいてのコメント課題が与えられる。中間、期末試験、その他クイズ形式の試験はオンライン上で行われ、資料の持ち込みは可である。
感想を自由記入	他の日本人学生にも人気の授業であり、授業やその中でのディスカッションも活気のある雰囲気で行われるため、個人としては強く履修を勧めたい。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Sociology/Social Trends and Problems	社会学
科目設置学部・研究科	
履修期間	1 学期間
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Alfonso Hernandez Marquez
授業内容	現代社会、特にアメリカ社会が抱える様々な社会問題について、そもそも社会問題とは何かというような基礎的な地表から学びを深める。
試験・課題等	授業内で購入をする教科書の内容に沿って計 3 回のクイズ形式の試験が行われる。加えて 2 つの 700 字程度のペーパー課題も与えられる。
感想を自由記入	多少授業難易度自体は高いが、学習する内容自体は正にアメリカの抱える社会問題に焦点が当たったものとなっているため、社会学に関心のある人には履修を強く勧めたい。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Theatre Arts/Introduction to Acting	演劇学
科目設置学部・研究科	Theatre Arts
履修期間	1 学期間
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Robert Prior
授業内容	演劇についての基礎的な要素や、発展的な要素まで授業内での様々なレクリエーションを通して学ぶ。
試験・課題等	1～2 週間ごとに個人、またはグループ単位でプロジェクトがあたえられ基本的にはそれらと与えられるレーディング課題に取り組む。中間、期末などの大きな試験機関には一人演劇などの本格的な演劇課題があたえられ取り組む必要がある。
感想を自由記入	授業内容は全て当然英語であり、与えられるプロジェクトもかなり難易度が高いものが多い。自身は以前から演劇経験があったため技術面においてはあまり困ることはなかったが、英語で行わなくてはならないという点がかかなり厳しいものであった。しかし、教授も学生も親切であり、演劇初心者でも楽しめる内容となっているため、余裕のある人や何か新しい概念に挑戦してみたいと考える人には強く履修を勧めたい。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	TOEFL 勉強、受験
留学開始年	1月～3月	応募、学内選考
	4月～7月	ビザ申請、航空券購入、ワクチン接種、滞在先の確保
	8月～9月	留学開始、中間試験
	10月～12月	期末試験、帰国
留学/帰国年	1月～3月	帰国書類提出
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校を選んだ理由としては芸術関連の授業の豊富さと学生の文化的背景の多様さでした。自身が以前から興味のある演劇について異なる文化圏で学びたいと考えていたため、留学先校においては演劇学を一学期間履修していました。加えて、以前から異文化間交流に関心があったため、総学生数が4万人以上であり、また在籍する学生の文化的背景も豊富なロングビーチ校はまさに最適でした。留学生活全体を通して、英語力はもちろん、コミュニケーション能力や生活力が身についたように感じています。言語は関係なしに見ず知らずの他人と新しく交流を行うことには勇気が必要です。ましてや文化的背景、使用言語が異なっていたため、慣れるまでは大きな心的負担が伴っていました。加えて、寮での生活は相部屋ではあるとはいえ生活全般は自分自身の手で行わなくてはならないため、今まで実家で生活していた自分にとっては大変ではありましたがとても良い経験になったと感じています。留学を行う前、開始直後は不安も多く決して楽しいと手放しにいえる状態ではありませんでしたが、留学を終えた今、心の底から留学を行うことができよかったです。この期間を通して乗り越えた困難の数々、異なる文化的背景を持つ人々と理解し合い、仲を深める事の出来たという経験は間違いなく自分の今後の人生において大きな財産になると確信しています。

これから留学を行うという事で、不安の多い方も多くいらっしゃると思います。自分も性格上人一倍不安を感じやすい人間であったため、留学前は楽しみよりも圧倒的に不安感の方が大きく、正直行きたくないと感じていました。しかし、そのような僕が留学を乗り越えた今、自身を持って楽しかったと断言することができます。不安を感じるなどは言いません、しかし、そのような不安感を抱えつつも自分自身の手で多くの困難を乗り越えていくという経験は間違いなく今後の皆さんの人生を豊かなものにしてくれます。貴重な機会ですので、ぜひ皆さんにとって実りのある留学生活となることを心の底から祈っています！